2022年度　学長所信4月1日　「社会との協調へ」

東京医科歯科大学 学長 田中雄二郎

新年度にあたり、皆さんにこれから進むべきと考えている方向性についてお伝えしますので、是非お聞きください。

私は、2019年10月に2020年度からの学長職に応募しました。その時に掲げたテーマは「力を合わせて未来を拓く」というものでした。ところが就任した2020年4月は思いもかけないパンデミックの出現で「ピンチをチャンスに」、「力を合わせて患者さんと仲間たちをコロナから守る」という標語を掲げ、パンデミックに正面から取り組むことを呼びかけました。皆さんはそれに賛同してくださり、献身的な努力を重ねて頂きましたことに、心から感謝しています。皆さんのお陰で、多くの患者が救われ、社会からも多くの支援と高い評価を頂きました。指定国立大学法人にも選ばれたのは、長い間の教育・研究業績の積み重ねに加えて、この社会貢献も大きかったと認識しています。

この経験を踏まえ、本学の最終目標は、優れた教育・研究の成果を上げるだけでなく、その成果を社会に還元することだと考えています。大学病院における診療はその直接的な表現ですが、それに留まらず産官学連携による人材開発や研究の社会実装は欠かせない社会貢献と考えています。

それが大学の理念である「知と癒しの匠を創造し人々の幸福に貢献する」ということだと思います。

2021年度の4月1日のご挨拶では、幸せの青い鳥は家の中に居たというメーテルリンクの童話を紹介し、「学内の協調」を進めようとお話ししました。まずは「足元から」という考えでした。

その実現にむけた学内コラボのコンテストでは学生の学科横断的な集いや研究のチャット、診療の集中治療回診などの試みが始まっています。

今年度も、学内コラボは引き続き推進していきます。

例えば、Ｍ＆Ｄタワー26階のファカルティラウンジで研究者交流の集いを定期的に開催する予定です。

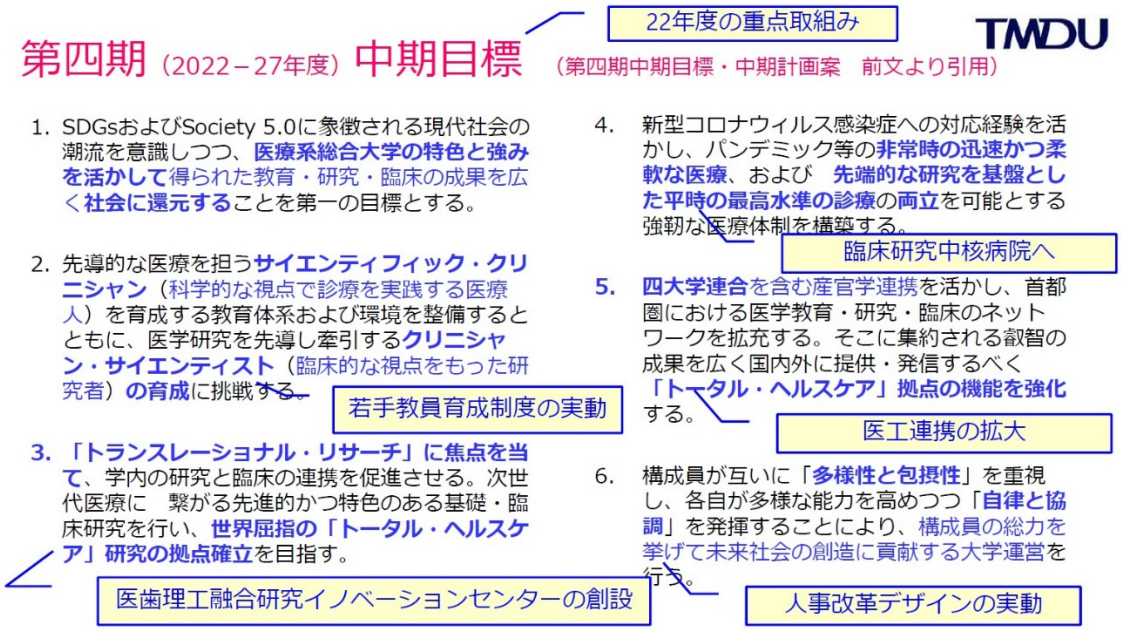
今年はこのような学内コラボの輪を大学の外にも広げて行きたいと思っています。今年のテーマは「社会との協調へ」ということで、アカデミア、産業界、自治体、省庁などとの協調を大学としてもこれまで以上に取り組んでいきたいと思っています。

このポスターをご覧ください。

本学は、この４月から指定国立大学法人となりました。国内で１０しかない、世界最高水準の教育研究活動の展開が期待される国立大学、という立ち位置になったということです。

指定国立大学法人としての本学の目標は、このポスターにあるように、「世代を超えた人類のトータル・ヘルスケア」の実現です。トータル・ヘルスケアには、すべての世代、すべての場所、すべての疾患を含めたヘルスケアを実現する意味を込めています。本学の「知と癒しの匠」たちが創る世界屈指のヘルスケア・サイエンス拠点の形成に向けた数々の取り組みをこれから、社会とともに始動するときです。

また、今年は国立大学としては、第４期中期目標期間の初年度にあたります。国立大学は法人化後、2022年度から4サイクル目がスタートします。この中期目標の前文に、指定国立大学構想も踏まえて、教育、研究、診療、社会との連携など、これから取り組むべき事項を盛り込みました。大学のホームページから見られるようになっていますので、ぜひ各自でご覧ください。



社会へのインパクトという点で言えば、ウクライナ戦争に触れないわけにはいきません。ＳＮＳを通じた画像で、多くの犠牲者が出ている様子が生々しく伝えられ、私たちに大きな衝撃を与えています。コロナウイルスのパンデミックと併せて、私たちは疑いもなく歴史の転換点にいます。そして、今年は本学のみならず我が国の大学にとっても、大きな転換点が訪れます。

昨今の大学をめぐる議論の中で、皆さんも新聞などで大学ファンドという名前を目にしたことがあると思います。国は１０兆円規模のファンドを創設して、世界最高水準の研究大学を形成するために、一定の要件を満たした大学に対して支援をすることを決めました。まだ仮称ではありますが国では新たに認定する枠組みを「国際卓越研究大学制度」と呼んでいます。

これはある意味指定国立大学の上位概念と言えるものです。大きな違いは、国際卓越研究大学は大学ファンドから数百億円規模の支援を受けられることです。この補助金を呼び水として社会から多くの資金を得て進むという大学に認定されれば、新たなキャンパスを取得することさえ可能となります。これは、永年の本学の課題であった財政面あるいは、スペースの問題をも解決することになります。ただし、国際卓越研究大学にはパラダイムを変えるような広範な社会貢献が求められていて、本学単独での守備範囲を超えています。国際卓越研究大学を目指すために、産官学連携を一層深めていく必要があると考えています。

しかし、国際卓越研究大学になるかどうかは手段であり、世のため人のために如何に貢献できるかが大学の本質的な価値だと考えています。

新型コロナをめぐる対応という局面では、冒頭も申し上げたように皆さん一人一人の協力のおかげで本学も社会へ大きく貢献することができました。

コロナと社会との共生が見えてきた今、次なるステップを踏み出す時期ではないかと思っています。今年は大学が次のステージへ向かうために、まずは指定国立大学としての歩みを一歩ずつ着実に進めて行ければと思っています。そのために皆さん、ぜひご協力をお願いします。